



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	Prevalence of Malnutrition and Associated Factors among Young Children in the Eastern Region of the Republic of Cameroon [an abstract of dissertation and a summary of dissertation review]
Author(s)	長堀, 智香子
Degree Grantor	北海道大学
Degree Name	博士(保健科学)
Dissertation Number	甲第12294号
Issue Date	2016-03-24
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/61776
Rights(URL)	https://creativecommons.org/licenses/by-nc-sa/2.1/jp/
Type	doctoral thesis
File Information	Chikako_Nagahori_review.pdf, 審査の要旨



学位論文審査の要旨

博士の専攻分野の名称：博士（保健科学）

氏名：長堀 智香子

審査委員	主査 教授	齋藤 健
	副査 教授	山内 太郎
	副査 准教授	野口 眞貴子

学位論文題名

Prevalence of Malnutrition and Associated Factors among Young Children in the Eastern Region of the Republic of Cameroon

（カメルーン東部州に居住する年少の子どもの栄養不良と関連要因）

当審査は平成 28 年 1 月 28 日実施の公開発表にて行われた。（出席者 43 名）

近年、子どもの栄養不良の要因に関する研究が盛んに行われている。しかし、その多くは栄養の質と量を改善することを目的としており、離乳食開始時期との関連は未開拓の分野で、今後の発展が待たれている状況にある。

本論文は、このような現況にある子どもの栄養不良と離乳食開始時期との関連について、重回帰分析を用いて量的に研究し、保健科学上の有益な知見を得ることを目的として調査したものである。

調査地はカメルーン共和国 Batouri 保健区とし、0～5 歳までの子どもの栄養評価と関連要因および離乳食開始時期との関連を明らかにすることを目的として実施した。

結果、本調査地は低身長が約半数、低体重が約 3 割と慢性の栄養不良の子どもが多かった。本調査地で同様の実態調査は行われておらず、本研究で得られた成果は、貴重な資料となると考えられる。第 2 章および第 3 章では子どもの栄養不良の関連要因を解析し、第 4 章で子どもの栄養状態と離乳食開始時期との関連について解析している。その際、子どもの栄養状態が年齢による影響を受け 2～3 歳で最も高くなり、その後に回復する傾向が見られたため、解析を 0～5 歳年齢グループの他に、0～2 歳グループ、2～5 歳グループのサブセット解析も行った。生物学的共変数および社会・人口学的共変数を考慮して重回帰分析を行った結果、適正な時期に開始すると、その後の子どもの栄養状態にプラスに影響することが示唆された。重要な変数となるデータの入手に制限があるなどにより因果関係は明らかに出来てはいないが、関連は示唆されており、今後更に研究を進めることにより、明らかにすることは可能だと考えられる。開発途上国において栄養の質的・量的改善アプローチは、貧困の背景もあり、行動変容に結び付けるのは難しい。実際に多くの援助機関が長年に渡り、アフリカで栄養改善の支援を行っているが目立った成果は得られていない。しかし、本研究の着眼点である「離乳食開始のタイミング」を変えるのであれば、コストもかからず、サブサハラアフリカのような低開発途上国でも実現が期待できると思われる。ま

た，本研究成果は，他のサブサハラアフリカ諸国への波及効果も十分に期待できると評価する。

これを要するに，著者は，子どもの栄養改善について，途上国でも行動変容が期待出来る新知見を得たものであり，サブサハラアフリカの子どもの健康保持・増進に対して保健科学上貢献するところ大なるものがある。

よって著者は，北海道大学博士（保健科学）の学位を授与される資格があるものと認める。